

《原著》

食育の学習評価に「観点別学習状況の評価」の視点をと
りこむことの可能性の検討
— 「さかな丸ごと探検ノート」を教材とする授業をもとに—

上原 正子^{*1, *8} 西尾 素子^{*2} 林 紫^{*3, *8}
伊與田敬子^{*4, *8} 浅田 由美^{*5, *8}
丸山真奈美^{*6, *8} 足立 己幸^{*7}

要旨

著者らは、2010年度から3年間にわたり、愛知県内の小・中学校において食の循環性を重視する食育教材である「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業を計画・実践し、その授業効果について検討を行った。その結果、子どもたちが主体的に繰り返し学ぶ授業の教材として、「探検ノート」が有用であることが示唆された。また、これらの実践事例の内容を深め、他の授業展開に活かすためには、授業評価法の改善が必要であることも示唆された。

そこで本研究では、実践してきた指導案に、新たに「探検ノート」を教材として作成した指導案を加えて、社会科、家庭科及び特別活動の学習目標と食育の学習目標の到達度を評価する評価観点を求めることができるかどうかを検討した。教科の学習目標の到達度にかかる評価の観点は「評価基準の作成のための参考資料」を基にキーワードを抽出し、食育の学習目標を到達する観点は関連する教科の評価観点を基に指導案の内容を整理した。

その結果、抽出したキーワードはひとつひとつの授業の教科の目標の視点として取り入れることができることや、食育の領域を観点別学習状況の評価枠の5つ—「食」への関心・意欲・態度、生活者としての思考・判断・表現、生活を創意工夫する能力、「食」に関する技能、「食」に関する知識・理解—に分類することが可能であることがわかった。

このことから食育の授業の指導案作成にあたっては、①学習目標の評価のキーワードを授業の評価の視点として検討する、②食育の学習目標を設定し、その目標のどこに観点別評価枠の評価を求めるのかを検討し、評価の基準を設定してから展開を作成するという手順で創り上げていくことにより、教科と食育を融合した実践可能な授業に改善できることが示唆された。

キーワード

食育 観点別学習状況の評価 さかな丸ごと食育 小・中学生 主体的学習

*1 愛知みずほ大学短期大学部
*2 元奈良女子大学生生活環境学部
*3 小牧市立小牧中学校
*4 豊橋市立牟呂中学校
*5 春日井市立不二小学校
*6 西尾市立東幡豆小学校
*7 名古屋学芸大学健康・栄養研究所
*8 名古屋学芸大学健康・栄養研究所客員研究員

I 緒言

筆者らは2010年度から3年間にわたり、愛知県内の小・中学校において、食の循環性を重視する食育教材「さかな丸ごと探検ノート」（以下、「探検ノート」）¹⁾を活用した授業を実践し、その授業効果について検討を行った。その結果、「探検ノート」が、①多教科において教材として有用であることの可能性があること、②学年の枠を超えて学習を進めることができる可能性があること、③“QOLとQOEの共生”“食の循環”の視点を系統立てて加えることができ、子どもたちが主体的に繰り返し学ぶことができる可能性があることを確認した^{2) 3)}。

3年間で「探検ノート」を活用した10例の学習指導案を作成し、家庭科、社会科、特別活動及び総合的な学習の時間において、食育の視点をもった授業として実践を重ねた。中学校家庭科では家庭科の目標である「手開きや加熱調理ができる」を達成できるだけでなく、約6割の生徒が「魚の栄養や健康」に興味・関心をもち、約5割の生徒が「魚を食べる自信」を高める等、授業に食育の視点を組み入れることの可能性を明らかにしてきた³⁾。

2008年3月、学習指導要領が改訂され⁴⁾、その総則に「学校における食育の推進」が明記された。文部科学省がまとめた「食に関する指導の手引」⁵⁾には、学校における食育の6つの視点が示されており、食育の授業実践を進めるにあたってはこの視点を指導案に具体的に明記することとしている。併せて小中学校における食育を推進するため、2009年度から「栄養教諭を中核とした食育推進事業」を実施している。そこでは学校給食を活用した食育の取組や教科及び特別活動等における担任教諭と栄養教諭によるTT（チームティーチング）授業等、学校において様々な取り組みがなされてきている⁶⁾。それらのおよそ200の事例の結果報告には事業の評価として、朝食欠食率や給食の食べ残し量、地域産物の活用率などの推移が報告されている。事業の評価は、授業を含めた年間の様々な取組みの積み上げによるものであり、個々の授業の評価がどのようにされている

かは明確ではない。

教育評価が変わらなければ、教育は変わらないという言葉がしばしば語られるように、授業における子どもの学習と発達を保証し、授業者の実践者としての専門的成長を支援するためには、授業における学習者の習得状況を的確に評価することが必要である。

筆者らが行ってきた「探検ノート」を活用した授業にあっては、社会科や家庭科及び特別活動それぞれの学習の目標の到達度の評価と食育の学習目標とした内容に対する評価を検討しながら研究してきた。その基となる評価方法については2008年の指導要領改訂に伴う評価の観点を活用して行ってきた。この評価法は2001年の指導要領改訂から進められた評価法であり、教育目標を評価基準として子どもたちの学力を評価する「目標に準拠した評価」といわれる。これまでの「到達度評価」を発展させ、基礎学力とともに発展的な学力の育成に向けて評価を実施していこうとするものである⁷⁾。

学校教育における評価は授業評価と子どもたちがどの程度学習目標に到達したかを明らかにする学力評価があり、学力評価の目的は、子どもたちの到達度の実態分析を行い、次の授業をどのように修正・改善していくかに役立てていくことにある⁸⁾。2010年3月にまとめられた「児童生徒の学習評価の在り方」についての報告⁹⁾では、学習指導と学習評価は一体のものであり、「目標に準拠した評価」は学習状況を分析的にとらえる「観点別学習状況の評価」（以下、「観点別評価」）と総括的にとらえる「評定」を合わせて実施していくことが望ましいとされた。さらに、学習指導と学習評価の一体化をさらに進めていくためには、学力の3つの要素、①基礎的・基本的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度を踏まえて評価の観点を整理することが適当であるとしている。そして、この報告の中で評価の観点に関する考え方が整理され、これまでの観定の構成であった「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。

学校における食育は、子どもの健康の維持・増進やQOLの向上を目的として行われる健康教育の一環としての役割があり、学校における食育の評価には健康教育（栄養教育）の評価の視点を取り入れる必要もある。武藤は「健康教育の流れは企画、実施、評価の3つに大別されるが、健康教育を成功させるためには、これらステージも重要であるので、各ステージに対してそれぞれ評価が行われるべきであろう」として評価の目的や手法による分類を示している¹⁰⁾。

今後、食育の授業における学習者の習得状況を評価するためには、実践しようとする社会科、家庭科、総合的な学習の時間及び特別活動等の食に関連する授業科目等（以下、「教科等」）の学習目標の到達度の評価と、食育の学習目標の到達度を両面から評価することが必要であり、教科等の観点別評価の観点と健康教育（栄養教育）の評価の視点を取り入れた評価法を作成する必要性は高いと考える。

II 目的

本研究は、学校における食育の授業を実施するにあたって、関連する教科の学習評価をもとに、食育の学習目標の到達度を評価する観点別評価枠について整理し、小学校3年生から6年生までを経年的に作成した学習計画を用いて、食育の観点別評価枠が作成できるかどうかを検討することを目的とした。

III 方法

健康教育（栄養教育）の視点を取り入れた評価の枠組案を作成し、学習者の習得状況を経過評価に位置づけた（付表1）。

これまで「探検ノート」を活用して実践してきた授業や開発してきた授業の指導案の該当する教科（社会科、家庭科）と特別活動（学級活動）（表1）について国立教育政策研究所教育課程研究センターの「評価基準の作成のための参考資料」¹¹⁾を基に、評価基準に盛り込むべき事項としてあげられている内容を整理し、キーワードを抽出した。抽出されたキーワードはこれまで作成してきた指導案のねらい、あるいは目標に盛り込まれるべき視点であるこ

付表1 評価の枠組案

種類	項目	
企画評価	目標設定	
	学習内容	内容
		教材
		時間
		構成
		教具
	評価方法	
経過評価	教育の実施状況	
	学習者の習得状況	学習目標の達成
		食育の学習目標の達成
影響評価	知識	
	態度	
	行動	
結果評価	めざす児童の姿	

とから、観点別評価枠に整理した。食育の観点別評価枠は示されていないため、社会科、家庭科、特別活動の評価の視点を参考に、食育の観点を設定し、食に関する指導の目標に掲げられている内容（例示）を整理した。そして、「探検ノート」を活用した指導案について、食育の学習目標に到達したかどうかを評価する到達度評価基準の作成を試みた。

IV 結果

1 小学校社会科の評価基準を基にしたキーワードの抽出

小学校社会科の学習目標は「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」¹²⁾であり、その評価の観点は、①社会的事象への関心・意欲・態度、②社会的な思考・判断・表現、③観察・資料活用の技能、④社会的事象についての知識・理解である¹¹⁾。授業事例2例のそれぞれの単元「地域の人々の生産や販売」及び「我が国の農業や水産業」について、前述した①～④の評価の観点に基づいたキーワードを整理し、共通の視点と単元ごとの特徴あるキーワードにまとめた。作成した指導案を活用する2つの社会科の単元の学年を通して共通するキーワードは、社会的事象への関心・意欲・態度では「関心をもつ」「意欲的

表1 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した学習計画

学年	教科等別学習計画（指導案）				地域		活用した「さかな丸ごと探検ノート」の視点					備考	
	特別活動	総合学習の時間	社会科	家庭科	都市部	海岸部	表紙	全体	生態	生産・流通	食事づくり		食べる
低学年	さかなともだちになろう				○	○		○					
	やさいもさかなもいっぱい！ ○○ってすこいところだね					○	○	○					
	家の中のさかなたんけん				○	○	○	○		○			都市部と海岸部で 一部内容異なる
3年	海の中たんけん！さかなも食べて、朝から元気いっぱい！				○	○		○					
			【はたらく人とわたしたちのくらし】スーパーマーケットのくふうを見つけよう		○	○				○			
4年	「いただきます」の意味を知ろう				○	○			○				
	成長と私たち				○	○						○	
5年		いわしを描いて、さばいて食べて（+国語、図工）			○	○					○	○	
		日本型食生活から学ぼう～栄養いっぱいさかな料理～			○	○					○		
			【わたしたちの生活と食料生産】わたしたちの真生活と水産物		○	○				○			
6年	「ごちそうさま」の意味を知ろう				○	○			○				
				【見直そう、食事と生活のリズム】さかなパワーをいかした朝食をつくろう	○	○					○		
				【見直そう、食事と生活のリズム】朝食の材料を買いに行こう	○	○						○	
6年				【まかせてね、今日の食事】わたしの「食」を工夫しよう～1食分の献立作り～	○	○					○		
		さかなパワーを知ろう			○	○					○		
	さかなパワーのひみつとおいしい食べ方を知ろう				○	○					○		

注) 色枠は実践した指導案

に調べる」, 社会的な思考・判断・表現では「学習問題を見いだして追究」「思考・判断」「言語などで適切に表現」, 観察・資料活用の技能では「必要な情報を集め読み取る, まとめる」, 社会的事象についての知識・理解では「理解」が, さらに学年別に特徴的なキーワードとして, 3年の本単元では「自分たちの生活とのかかわりを考える」「携わっている人々の工夫」「的確に見学, 調査」「具体的資料の活用」が, 5年の本単元では「我が国の食料生産の発展を考える」「国民の食料を確保する重要な役割」「自然環境との深いかかわり」「的確に調査」「基礎的資料の活用」が抽出された(表2).

2 小学校家庭科の評価基準を基にしたキーワードの抽出

小学校家庭科の学習目標は「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して, 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに, 家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ, 家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」であり¹³⁾, 評価の観点には, ①家庭生活への関心・意欲・態度, ②生活を創意工夫する能力, ③生活の技能, ④家庭生活についての知識・理解となっている¹¹⁾. 作成した指導案を活用する3つの単元の授業事例を観点別に整理すると家庭生活への関心・意欲・態度では「関心をもつ」「○○しよう」, 生活を創意工夫する能力では「課題を見付ける」「解決を目指して考えたり自分なりに工夫したりする」, 生活の技能では「基礎的・基本的な技能」, 家庭生活についての知識・理解では「理解する」「基礎的・基本的な知識」が共通するキーワードとして抽出された(表3).

3 小学校特別活動の評価基準を基にしたキーワードの抽出

特別活動(学級活動)の学習目標は「望ましい集団活動を通して, 心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り, 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的, 実践的な態度を育てるとともに, 自己の生き方についての考えを深め, 自己を生かす能力を養う」¹⁴⁾となっている. 評価の観点には, ①集団活動や生産への関心・意欲・態度, ②集団の一員としての

思考・判断・実践, ③集団活動や生活についての知識・理解である¹¹⁾. 学年を通して共通する評価の観点のキーワードを整理すると, 集団活動や生産への関心・意欲・態度では「関心をもつ」「日常生活や学習に取り組もうとしている」, 集団の一員としての思考・判断・実践では「日常生活や学習の課題」「話し合う」「自分に合ったよりよい解決方法」「考え, 判断し, 実践」, 集団活動や生活についての知識・理解では「大切さ」「理解」であった. さらに, 学年別に特徴的なキーワードとして, 低学年(1・2年)では「自己の身の回りの問題」「進んで」「学級生活を楽しむ」「基本的な生活や学習の仕方」, 中学年(3・4年)では「自己の生活上の問題」「意欲的に」「楽しい学級生活」「よりよい生活や学習の仕方」, 高学年(5・6年)では「自己の生活の充実と向上にかかわる問題」「自主的に」「楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる」「健全な生活や自主的な学習の仕方」が抽出された(表4).

4 学習目標の達成を評価する視点

これら抽出されたキーワードを, 作成した指導案の学習目標に到達できたかどうかを評価する視点として整理した(表5).

5 教科等における観点別評価枠による食に関する指導の内容の整理

文部科学省が示している食に関する指導の目標は, 6つのカテゴリー(食事の重要性, 心身の健康, 食品を選択する能力, 感謝の心, 社会性, 食文化)に分類されておりそれぞれ内容が例示されている⁵⁾. この例示には児童の学習活動や行動とその内容が混在していたが, 例示を基に食育の学習評価の観点の枠組作りを試みた. 観点の枠組は, 観点別学習状況の評価の在り方に示されている4つの観点に基づいて検討した⁹⁾. 社会科の観点は「関心・意欲・態度」, 「思考・判断・表現」, 「技能」, 「知識・理解」であり, 家庭科の観点は「思考・判断・表現」が「生活を創意工夫する能力」となっている. これは家庭生活における身近な課題の解決を目指して考える(思考力), 考えたことを基に課題の解決を図る(判断力), 考えたことを的確に表す(表現力)という「思考・判断・表現」を

表2 評価の観点に基づいたキーワードの抽出 - 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業実践の評価枠組の検討のための資料として (社会科)

学年	授業	学習指導要領の内容	評価基準に盛り込むべき観点別事項		
			社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能
3年	【はたらく人とわたしたちのくらし】スーパーマーケットのくふうを見つけよう	「地域の人々の生産や販売」について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり	地域の人々の生産や販売の仕事の様子から学習問題を見いだして追究し、それらの仕事に携わっている人々の工夫について思考・判断したことを言語などで適切に表現している	地域の人々の生産や販売の仕事の様子を的確に見学、調査したり、具体的な資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめている	地域の人々の生産や販売の仕事に携わっている人々の工夫を理解している
5年	【わたしたちの生活と食料生産】わたしたちの生活と水産物	「我が国の農業や水産業」我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることやや自然環境と深いかかわりをもっていることやや自然環境と深いかかわりをもっていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること、我が国の食料生産物の分布や土地利用の特色など。食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結び運輸などの働き	我が国の農業や水産業の様子から学習問題を見いだして追究し、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることやや自然環境と深いかかわりをもっていることやや自然環境と深いかかわりをもっていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している	我が国の農業や水産業の様子を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめている	我が国の農業や水産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることやや自然環境と深いかかわりをもっていることを理解している
	評価の観点に関するキーワード	学年を通して共通 学年別に異なる	○学習問題を見いだして追究 ○思考・判断 ○言語などで適切に表現	○必要な情報を集めて読み取る、まとめる	○理解 3年 ○携わっている人々の工夫 5年 ○国民の食料を確保する重要な役割 ○自然環境との深いかかわり

国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価基準の作成のための参考資料」を基に作成

表3 評価の観点に基づいたキーワードの抽出 - 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業実践の評価枠組の検討のための資料として（家庭科：小学校6年）

授業	学習指導要領の内容	評価基準に盛り込むべき観点別事項			
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
<p>授業</p> <p>【見直そう、食事と生活のリズム】 さかなパワーをいかした朝食をつくらう</p>	<p>「B 日常の食事と調理の基礎 (3) 調理の基礎」 (3) 調理の基礎について、次の事項を指導する ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画をたてること イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること エ 米飯及びみそ汁の調理ができること オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びごんごんの安全な取扱いができること</p>	<p>調理に関心をもち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている</p>	<p>日常よく使用される食品を用いた調理について考えたり、自分なりに工夫したりしている</p>	<p>日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている</p>	
<p>【見直そう、食事と生活のリズム】 朝食の材料を買いに行こう</p>	<p>「D 身近な消費生活と環境 (1) 物や金銭の使い方と買い物」 (1)物や金銭の使い方と買い物について、次の事項を指導する ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方や考えること イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること</p>	<p>物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、適切に買物しようとしている</p>	<p>物や金銭の計画的な使い方と適切な解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている</p>	<p>物や金銭の計画的な使い方と適切な買物に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている</p>	
<p>【まかせてね 今日の食事】 わたしの「食」を工夫しよう -1食分の献立作り-</p>	<p>「B 日常の食事と調理の基礎 (2) 栄養を考えた食事」 (2)栄養を考えた食事について、次の事項を指導する ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせてとる必要があることが分かること ウ 1食分の献立を考えること</p>	<p>日常の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている</p>	<p>栄養を考えた食事について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている</p>	<p>栄養を考えた食事のとり方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている</p>	
<p>評価の観点に関するキーワード</p>		<p>○関心をもち ○□□しよう</p>	<p>○課題を見付ける ○解決を目指して考えたり自分なりに工夫したりする</p>	<p>○基礎的・基本的な技能 ○理解する ○基礎的・基本的な知識</p>	

国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価基準の作成のための参考資料」を基に作成

表4 評価の観点に基づいたキーワードの抽出 - 「さかな丸」を抽出 - 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業実践の評価枠組の検討のための資料として（特別活動＜学級活動＞）

学年	授業	評価基準に盛り込むべき観点別事項		
		学習指導要領の内容 ¹⁾	集団活動や生産への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践
低学年	さかなとともだちになろう	学級を単位として、仲よく助け合い学級生活を楽しくすることともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと	自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している
3年	やさいもさかなもいっぱい！ てすごいところだね 家の中のさかなたんけん 海の中たんけん！さかなも食べて、朝から元気いっぱい！ 「いただきます」の意味を知ろう	学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくるとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと	自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている	楽しい学級生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している
4年	成長と私たち			
5年	「ごちそうさま」の意味を知ろう	学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと	自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している
6年	さかなパワーのひみつとおいしい食べ方を知ろう			
	評価の観点に関するキーワード	学年を通して共通 学年別に異なる	<input type="radio"/> 関心をもち <input type="radio"/> 日常の生活や学習に取り組もうとしている <input type="radio"/> 1・2年 <input type="radio"/> 自己の身の回りの問題 <input type="radio"/> 進んで <input type="radio"/> 3・4年 <input type="radio"/> 自己の生活上の問題 <input type="radio"/> 意欲的に <input type="radio"/> 5・6年 <input type="radio"/> 自己の生活の充実と向上にかかわる問題 <input type="radio"/> 自主的に	<input type="radio"/> 大切さ <input type="radio"/> 理解 <input type="radio"/> 1・2年 <input type="radio"/> 学級生活を楽しくする <input type="radio"/> 3・4年 <input type="radio"/> 楽しい学級生活をつくる <input type="radio"/> 5・6年 <input type="radio"/> 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる <input type="radio"/> 健康的な生活や自主的な学習の仕方

国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価基準の作成のための参考資料」を基に作成。1) [共通事項] (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

表5 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業の学習目標の達成を評価する視点

学年	授業		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	生活を創意工夫する能力	技能	知識・理解
	特別活動	社会科					
低学年	さかなとともだちになろう		関心をもつ 自己の身の回り 進んで取り組む	話し合う 自分に合ったよりよい解決 方法を考える、実践する 学級生活を楽しくする	生活を創意工夫する能力	技能	大切さ 理解 基本的な生活 学級生活を楽しくする
3年	・やさいもさかなもいっばい！ だね ・家の中のさかなたんけん ・家の中たんけん！さかなも 食べて、朝から元気いっばい		関心をもつ 自己の生活 意欲的に取り組む	話し合う 自分に合ったよりよい解決 方法を考える、実践する 楽しい学級生活	生活を創意工夫する能力	技能	大切さ 理解 よりよい生活 楽しい学級生活
4年	・「いただきます」の意味を知ろう ・成長と私たち	【はたらく人とわたしたちのくらし】スーパーマーケットのくふうを見つつけよう	関心をもつ 意欲的に調べる 自分たちの生活とのかわり	学習問題を見いだして追究 思考・判断 言語などで適切に表現 携わっている人々の工夫	生活を創意工夫する能力	技能	理解 携わっている人々の工夫
5年	「ごちそうさま」の意味を知ろう	【わたしたちの生活と食料生産】わたしたちの食生活と水産物	関心をもつ 自己の生活 意欲的に取り組む	話し合う 自分に合ったよりよい解決 方法を考える、実践する 楽しい学級生活	生活を創意工夫する能力	技能	大切さ 理解 よりよい生活 楽しい学級生活
6年	さかなパワーのひみつとおもしろい食べ方を知ろう	・【見直そう、食事と生活のリズム】さかなパワーをいっかした朝食をつくろう ・【見直そう、食事と生活のリズム】朝食の材料を買いに行こう ・【まかせてね！今日の食事】わたしたちの「食」を工夫しようー1 食分の献立作りー	関心をもつ 自己の生活の充実と向上 自主的に取り組む	話し合う 自分に合ったよりよい解決 方法を考える、実践する 楽しく豊かな学級や学校の生活	課題を見付ける 解決を目指して考えたり自分なりに工夫したりする	基礎的・基本的な技能	理解する 基礎的・基本的な知識 大切さ 理解 健全な生活 楽しく豊かな学級や学校の生活

一体的に評価する必要から観点を「生活を創意工夫する能力」としている¹¹⁾。「思考・判断・表現」の評価は教師にとっては4つの観点の中で学習評価が円滑に行われにくいもの、一定の制限時間内に解決し、記述できるかどうかのみを評価するものではない⁹⁾とされている。これら各教科の観点別学習状況の評価は学習指導要領に示された学習の目標をどれだけ準拠したかの評価であり、4つの観点の評価が指導要録に記されることになる。食育の学習評価の観点別評価枠を作成するにあたっては、食育の学習目標が複数年を見通して行われる内容となることが想定されること、長期的な変化・成長・発達の過程の評価を示すことが必要となること、指導要録に記される評価ではないこと、理由から、「思考・判断・表現」を「生活者としての思考・判断・表現」と「生活を創意工夫する能力」に分け、限られた能力による評価枠を設定した。これは、国語の「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」と能力を区分していることに準じた枠組みと捉えた。

例示された全ての学習活動や行動の内容を5つの評価枠に分類した。(表6)その結果、「食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する」「食環境と自分の食生活とのかかわりを理解する」については「食」に関する知識・理解、「自ら調理して食事の準備ができることは、健全な日常生活の基盤を支える技術である」は「食」に関する技能、「食事を規則正しくとる、特に朝食をとる」は生活者としての思考・判断・表現のように、食に関する指導の6つのカテゴリーの内容全てを5つの観点に分類することができた。そして観点を「食」と捉え、①「食」への関心・意欲・態度、②生活者としての思考・判断・表現、③生活を創意工夫する能力、④「食」に関する技能、⑤「食」に関する知識・理解とすることができ、これらを評価の観点とする可能性が確認できた。

6 食育の観点別評価による評価規準の作成

食育の評価の観点とした5つの枠-「食」への関心・意欲・態度、生活者としての思考・判断・表現、生活を創意工夫する能力、「食」に関する技能、「食」に関する知識・理解-別に、「探検

ノート」を活用した指導案の食育の学習到達度を評価する評価規準の作成を試みた。(表7)その結果、実践した指導案や新たに作成した指導案全てに複数の観点別評価枠の評価規準を作成することができた。

7 食育の観点別評価枠の作成

以上の事を踏まえて食育の観点別評価枠を作成した(図1)。

健康教育としての食育の授業には経過評価としての学習者の習得状況の評価することが必要であり、この評価のためには教科等の学習目標の到達度の評価と、食育の学習目標の到達度を両面から評価することが必要である。本研究により食育の学習目標の到達度を評価する観点別評価枠を作成することができた。

V 考察

1 学習目標の到達度評価

評価は企画の段階から考えていなければならないものである。食育の指導案において学習目標の到達度を評価する視点がキーワードによって整理できたことは、単元を通して行うことが少ない食育の学習にとって、単時間の授業であっても学習目標の到達度を評価する視点ができたといえる。このキーワードを視点として社会科、家庭科、特別活動の食育の指導案を作成することにより、教科等の学習目標に沿った学習内容を深めることができると考える。

2 食育の学習目標の到達度評価

食育の観点別評価が「食」への関心・意欲・態度、生活者としての思考・判断・表現、生活を創意工夫する能力、「食」に関する技能、「食」に関する知識・理解の5つの観点で評価することが可能であることを確認できたことは、今後の食育の指導案作成にあたり、食育の視点を評価の視点として観点別に表わすことが必要であることが示唆されたと言える。

「探検ノート」を活用した指導案について食育の学習目標の達成を評価する観点別の視点の作成する過程においては、作成していた指導案に十分な視点が盛り込まれていないことがわかり、指導案の目標や内容について改善を試

表6 評価の観点に基づいた食に関する指導の内容の分類

食に関する指導の目標	食に関する指導の内容(例示)	「食」への関心・意欲・態度	生活者としての思考・判断・表現	生活を創意工夫する能力	「食」に関する技能	「食」に関する知識・理解
食事の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ◆食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する ☆食事は規則正しくとることが大切であり、特に、朝食をとることとは、心と体を活動できる状態にし、もてる力を十分に発揮できるようにすること ・外食や中食、自動販売機やコンビニエンスストア等の食環境と自分の食生活とのかかわりを理解すること ☆自ら調理して食事の準備ができることは、健全な日常生活の基盤を支える技術であること 		<ul style="list-style-type: none"> ○食事を規則正しくとる、特に朝食をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の食生活を見つめ直し、よりよい食習慣を形成しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら調理して食事の準備ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解することのかかわりを理解する
心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ◆心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける ・自分の食生活を見つめ直し、よりよい食習慣を形成しようとする ・1日分の献立をふまえて、簡単な日常食の調理をすること 		<ul style="list-style-type: none"> ○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事を自ら管理していく能力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の食生活を見つめ直し、よりよい食習慣を形成しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ○1日分の献立をふまえて、簡単な日常食の調理をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解する
食品を選択する能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける ☆日常食べている食品や料理の名前や形を知ること ・食事の準備や後片付けは、安全や衛生に気を付けて行うこと ・食品表示など食品の品質や安全性等の情報について関心をもつこと ・食品の品質の良否を見分け、食品に含まれる栄養素やその働きを考え、適切な選択をすること ・食品の衛生に気を付けて、簡単な調理をすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○食品表示など食品の品質や安全性等の情報について関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける ○食品の品質の良否を見分け、食品に含まれる栄養素やその働きを考え、適切な選択をする 		<ul style="list-style-type: none"> ○食事の準備や後片付けは、安全や衛生に気を付けて行う ○食品の衛生に気を付けて、簡単な調理をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常食べている食品や料理の名前や形を知ること ○食物の品質や安全性についての正しい情報に基づいた正しい知識を知る
感謝の心	<ul style="list-style-type: none"> ◆食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ ・感謝の気持ちの表れとして、残さず食べたり無駄なく調理したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ 			<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の気持ちの表れとして、残さず食べたり無駄なく調理する 	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ◆食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける ☆協力して食事の準備や後片付けをすること ☆はし方の使い方、食器の並べ方、話題の運び方などの食事のマナーを身に付けること ☆マナーを考え、会話を楽しめながら気持ちよく会食をすること ・自然界の中で動植物と共に生きている自分の存在について考え、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける ○協力して食事の準備や後片付けをする ○食事のマナーを身に付ける ○マナーを考え、会話を楽しめながら気持ちよく会食する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然界の中で動植物と共に生きている自分の存在について考える 		
食文化	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域の産物、食文化にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ ☆諸外国の食事の様子を知ることとは、国際理解にもつながること ・日本、日本の風土や食文化の理解を深めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域の産物、食文化にかかわる歴史等を尊重する心をもつ 				<ul style="list-style-type: none"> ○各地域の産物、食文化にかかわる歴史等を理解する ○諸外国の食事の様子を知ることとは、国際理解にもつながること ・日本、日本の風土や食文化の理解を深める

食事の内容等に関することははばずした、☆は食生活の内容等に関することであるが、評価の観点での分類が可能であった事項

表7 「さかな丸ごと探検ノート」を活用した授業の食育の学習目標の達成を評価する視点

学年	授業			生活者としての思考・判断・表現	生活者として働く能力	「食」に関する技能	「食」に関する知識・理解
	総合学習の時間	社会科	家庭科				
低学年	特別な活動						
	さかな丸ごと探検ノート						
3年	特別な活動						
	さかな丸ごと探検ノート						
4年	特別な活動						
	さかな丸ごと探検ノート						
5年	特別な活動						
	さかな丸ごと探検ノート						
6年	特別な活動						
	さかな丸ごと探検ノート						

食育の学習目標の達成を評価する視点					
食育	「食」への 関心・意欲・ 態度	生活者として の思考・判 断・表現	生活を創意 工夫する 能力	「食」に関す る技能	「食」につい ての知識・理解
学習目標の達成を評価する視点					
教科等	関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	生活を創意 工夫する 能力	技能	知識・理解
社会科	社会的事象へ の関心・意欲・ 態度	社会的な思 考・判断・表現	—	観察・資料活 用の技能	社会的事象につ いての知識・理 解
家庭科	家庭生活への 関心・意欲・態 度	—	生活を創意 工夫する能力	生活の技能	家庭生活につい ての知識・理解
特別 活動	集団活動や生 活への関心・ 意欲・態度	集団の一員と しての思考・判 断・実践	—	—	集団活動や生 活についての知 識・理解

図1 食育の学習評価の観点枠の試案

みたものがあつた。

今後、食育の指導案作成にあたっては、①学習目標の評価のキーワードを授業の評価の視点として検討する、②食育の学習目標を設定し、その目標のどこに観点別評価枠の評価を求めるのかを検討し、評価の基準を設定してから展開を作成するという手順で創り上げていくことにより、実践性の高い、教育効果を高めた教科等と食育が融合した総合的な授業となると考える。

食育の評価の基本的な考え方について文部科学省は「各教科等における食に関する指導は、関連教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動等において、教科のねらいに沿って指導が行われます。ここでの評価は、まずは、教科のねらいに対する評価が必要であり、直接的には食に関する指導の評価にはならないと考えられます。教科等における食に関する指導については、栄養教諭が食育の視点に立った評価資料を作成し、担任（教科担当）等が行う当該単元の評価に資するものとして提供することが望まれます⁵⁾。」と記している。本研究は「探検ノート」を教材として食育の学習評価枠の検討を行ってきた。学校における食育の授

業の展開・発展にあつては食育のコーディネータの役割をもつ栄養教諭が、教科等の評価を踏まえながら、食育の学習評価をきちんと捉えた指導案を作成することが一歩であると考えている。その指導案を担任と栄養教諭が共に理解することで協働での授業は可能になる。

今後は、食育の目標の達成を評価する観点が5つの観点でよいかどうか、集約できる観点があるのか、新たに加えるべき観点があるのか等、さらなる検討が必要と考える。これらの検討にあたっては2008年の学習指導要領の改訂から教育活動評価の視点の改善もなされてきていることに鑑み、教育学の専門家からの意見を求めながら検討する必要がある。

VI 結論

食育の授業実践にあたり、学習者の習得状況の評価する方法として、観点別評価を用いた学習の目標の達成を評価するキーワードが整理でき、食育の学習目標の達成に視点をおいた評価枠の検討においては、食に関する指導の6つのカテゴリーを教科等の観点別評価枠を使って5つに整理することができた。これによりこれまで食育の授業の中で、教科等の学習目標

と食育の学習目標が異なった視点で評価されていたものが、同じ観点別評価枠の考え方で評価を捉えることができ、教科等の学習目標と食育の学習目標、教科等の学習評価と食育の学習評価が一体となったものとなる可能性が示唆された。

本研究は、一般財団法人東京水産振興会普及啓発事業「魚食普及のための食教育の検討」(研究代表者 足立己幸)として実施した。本研究の一部は、第61回日本栄養改善学会(2014)で発表した。

参考文献

- 1) 足立己幸編著. 「さかな丸ごと探検ノート」. 東京: 財団法人東京水産振興会, 2011
- 2) 上原正子, 西尾素子, 林紫他: 小学校における「さかな丸ごと探検ノート」の食育教材としての可能性. 名古屋学芸大学健康・栄養研究所年報. 第6号. 2014: 1-12.
- 3) 足立己幸. 2011年度研究の概要「魚丸ごと食育」プログラム・教材開発に関する研究-平成23年度事業報告. 東京: 一般財団法人東京水産振興会, 2012:5
- 4) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説総則編. 2008: 28-31
- 5) 文部科学省. 食に関する指導の手引-第一次改訂版-. 2010
- 6) 文部科学省学校健康教育課. 栄養教諭を中核とした食育推進事業事業結果報告書平成21~24年度. 2010-2013
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1340547.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1325677.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1310670.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1302830.htm
- 7) 田中耕治編者. よくわかる教育評価. ミネルヴァ書房, 2014: 10-11
- 8) 田中耕治編者. よくわかる教育評価. ミネルヴァ書房, 2014: 22-26
- 9) 文部科学省. 児童生徒の学習評価の在り方について(報告). 2010
- 10) 武藤孝司, 福渡端著. 健康教育・ヘルスプロモーションの評価. 篠原出版, 1996: 23-27
- 11) 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 評価基準の作成のための参考資料(小学校). 2010
- 12) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説社会編. 2008
- 13) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説家庭編. 2008
- 14) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説特別活動編. 2008

Abstract

Considering evaluation of learning status per viewpoint in the overall evaluation of *Shokuiku* programs, using the workbook *The ABC's of Fish, A Holistic View*

**Masako Uehara^{1), 8)}, Motoko Nishio²⁾, Yukari Hayashi^{3), 8)}, Takako Iyoda^{4), 8)},
Yumi Asada^{5), 8)}, Manami Maruyama^{6), 8)}, and Miyuki Adachi⁷⁾**

Since 2010, we have examined *Shokuiku*, food and nutrition education, programs using the workbook *The ABC's of Fish, A Holistic View* in elementary schools and junior high schools in Aichi Prefecture, Japan. Although we found that children can use the workbook for both independent and repeated study, there remains a need to evaluate classes individually to further improve the programs practically, especially for use as learning materials in home economics and social studies as well as *Shokuiku*. In this study, we focused on evaluations of learning status per viewpoint in the overall evaluation of *Shokuiku* in classes using this workbook. We extracted key terms for evaluation of learning status per viewpoint, and confirmed that class contents were consistent with these terms. We found that criteria of *Shokuiku* at school consisted of the following five points: interest, motivation, and attitude toward food and nutrition; thinking, judgment, and practices as people; ability to build a healthy lifestyle; food and nutrition skills; knowledge and understanding of food and nutrition. These results suggest that evaluation of learning status per viewpoint should be taken into consideration when planning classes in *Shokuiku* in an elementary- or junior high school setting.

Keywords:

Shokuiku; food and nutrition education; evaluation of learning status per viewpoint; *Shokuiku* from a holistic view on fish, humans and the environment; elementary and junior high school students; independent study

1) Aichi Mizuho Junior College

2) Ex Nara Women's University

3) Komaki Junior High School, Komaki City

4) Muro Junior High School, Toyohashi City

5) Fuji Elementary School, Kasugai City

6) Higashihazu Elementary School, Nishio City

7) Council of Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences, (honorary)

8) Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences (visiting researcher)